

総務常任委員会

(令和 6 年 8 月 1 9 日)

総務常任委員会

午前 11 時 37 分 開会

○中村英仁委員長 ただいまから、総務常任委員会を開会します。

本日の会議は、タブレット端末に掲載した日程により進めてまいります。

それでは、「2. 協議事項 (1) 防災をテーマとした政策提言について」を議題といたします。

前回の協議の中で、テーマをデジタル等の新技術の活用、地域における防災力の強化の2点に絞り、皆さんに事前に送付したものが、資料1になります。その中で、正・副委員長において、各委員から回答いただいた意見をまとめたものを記載しております。

それぞれ、皆様から出していただいたものをまとめました。全て記載したわけではありません。

秦野市総合防災情報システムの常時活用など、多く御意見をいただいておりますし、要支援者の情報とマイナンバーカードを活用した情報などがあります。

また、地域における防災力の強化では自治会加入率の低下、自治会未加入者への情報周知や、自ら考える防災訓練とか、そういうところが上がっております。

その上で、議会報告会の中で意見交換会を行うにあたり、1のデジタルと新技術の活用についてというものと、2の地域における防災力の強化（地域力の発揮）についてをテーマごとにグループ分けをしたいと思います。

現在、総務常任委員会8人で、2グループに分けて4人ずつ、このテーマごとに組み合わせていただくという形にしたいと思いますけれども、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 それでは、そのように決定いたします。

では、正・副委員長で、分かれて、地区等も考慮して

1 デジタル等新技術の活用については、私、中村（北地区）、相原委員（北地区）、八尋委員（西地区）、古木委員（南地区）とします。

2 地域における防災力の強化（地域力の発揮）については、小山田副委員長（北地区）、大塚委員（西地区）、原委員（南地区）、今井委員（鶴巻地区）とグループを分けさせていただきたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 それでは、そのように決定いたします。

また、意見交換先として、多くの声が上がっている自主防災会にさせていただくことがよろしいかなと思いますが、その具体的な内容を皆さんからいただいた中で、絞っていききたいと思います。

まず、デジタル等新技術の活用における課題は、大きく6つあるんですけども、この中から要は具体的な提言につながるような形にしていこうと思いますが、この6つの中から設定していくという形でよろしいでしょうか。

古木委員。

○古木勝久委員 この6つから選択するっていうことでしょうか。

○中村英仁委員長 そこに関しては、この6つから選択という形でもいいと思っていますし、これを含めていくって形でもいいとは思っています。ただ、あまり絞ってしまうとすごく個別具体になってしまうのかなと思っているところでもあります。ある程度、この中から1つに決めてくださいというよりは複合できるものに関して、うまく複合させていった上で意見にしていけることが適正かなとは思っております。ただ皆さんから、御意見いただいた中でまとめていくとこういう感じになりました。

古木委員。

○古木勝久委員 2つに分かれて行うということだと日程なんかも流動的に、適宜やっていく、必要に応じてという、そういう理解でよろしいですか。

○中村英仁委員長 そのとおりでございます。ただ、意見交換会に関しては、基本的には、1つの日程で合わせようと思っています。ただ、相手先の問題で、もしかしたら同日ですけど、午前、午後で分かれちゃうこともあるかもしれないですけども、基本的には同日でやっていこうと思っています。ある程度のメインテーマというか、決まった時点では、2つに分けて、それぞれまとめていただいて意見交換会が終わった後に、大体のまとめになってくると思います。その段階で、こういう意見としてまとまりましたっていうのをそれぞれ情報共有のために、御説明をさせていただいた上で、そこに対しての自分が入ってないほうのグループに御意見もあるでしょうから、そこで調整を図っていこうかなとは思っています。そのような形で、考えておりますけどもいかがですか。

大塚委員。

○大塚毅委員 全体的な流れ、具体的な流れに関しては、いいと思います。

ただ、この課題が、6項目あるんですけど、出したものに対しての少し補足説明みたいなものがあればと思うのですが……。

あと、要はそれぞれ皆さんが出したものを集約してこの6つになっているとは思いますが……。

ちょっと、私が伝え方たかったところがまとめに入っていない。

○中村英仁委員長 各委員のいろいろな考え方があるのは事実だとは思っているんですけども、本当申し訳ないのですけれども、今回、正・副委員長で、ある程度のところまでは絞り込んでいかないと議論をする期間とか、どういうふうにしていこうっていうこと自体が短くなってしまうので、基本的には、多く意見があったところを形にしていけること。元々大まかなところは決まっているのでそこでやっていければなと思っている

のである程度のところを絞ったのは事実です。

そこで全部自分の意見が入ってない方が、御不満ということもよく分かっておりますが、基本はこれでいきたいと思っていますけれども、グループ分けのほうの中でお話をしていただくことで、あとは、グループ4人の全員の同意が取れば、追加を含むということは、別に構わないとは思っておりますけれども、ただ11月が基本的には意見交換会という形になっておりますので、その11月の意見交換会までの間に、ある程度4人全員で統一をしていただいた上で意見交換会をしたほうが有意義な状況になるはずだと考えておりますので、そうしますと回数が増えると議論の一致を見ないのに動いていくという状況になることが、ちょっと私としては怖いので、ある程度のところを集約したというのは事実でございます。

そこに皆さんの同意があってスムーズに進んでいくのであれば、ここに入れてないものなどから入れるってことはいいんじゃないかなとは思っておりますけど、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 それでは、そのように決定いたします。

一応、ここが基本ということで進めていけばいいんじゃないかなと思いますのでよろしく願いいたします。

古木委員。

○古木勝久委員 簡単に言うと、これはたたき台で、今後、これで加味したりちょっと修正したり、あるいはなくなるものも緩やかに考えていきましょうということで、理解しました。

○中村英仁委員長 この3つを必ず入れてくださいって意味でもないですし、1つじゃなきゃいけないわけでもありませんので、そこはそういう形にしていってほしいのかなと思います。

小山田委員。

○小山田良弘委員 その中で、今、グルーピングしましたので、1グループに入っている人が、2グループの項目について、実はこういうのを少し検討していただけませんかっていうのはどっかで設けてあげないと、ずっと進んでいっちゃうことになっちゃうので、それはお互い様だと思います。

○中村英仁委員長 そのときは、それぞれのグループに、正・副委員長がいるので、向こう側に御意見が言いたいと話があれば、ここで交換をしながらやっていく形にしていければ、その中で拾い上げて、検討していただくって形でよろしいですか。

古木委員。

○古木勝久委員 文言のことで、ちょっと。2の最後の6ですが、家族や向こう3軒両隣の自助共助が確認できない。これどういう意味なのか。

○中村英仁委員長 自治会の加入率の低下と同様で、昔は向こう3軒両隣の自助共助の確認っていうことは、昔はできていましたが、連携とか元々の顔がちゃんと確認できないってことだけど、今、なかなかそういう時代じゃなくなっているところが課題だよって話だと思います。

古木委員。

○古木勝久委員 了解しました。そういうところも含め、細かいところですね。

○中村英仁委員長 この当たりが、多いところ自治会の単位というか機能とか、あとは地域ごとの特殊性というところが大きく変わってくるのかなとは思っています。

そこを考えながら、それぞれのグループ4人で考えて、そこにできれば視察で見えたものを反映できるような形になるとありがたいなというところは、個人的には感じておりますけれども、まずは、課題におけるところの取り組み方というふうにしていくことで、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 それでは、そのように決定いたします。

次に、意見交換先ですが、皆さんから、9項目上げていただいて、この皆さんから、複数挙げてもらった中で、一番多かったのが、自治会連合会というか自主防災会でした。できれば、2団体にしたいなと思っていたんですが、9番の防災アドバイザーの方が地域にかかわって、活動されています。防災アドバイザーを基本に、そういう意味では、理解した上で、こちら側としては、自主防災会の方、プラス防災アドバイザーと意見交換をするということが、今回のテーマには一番いいのかなと思うんですけど、皆さんいかがでしょうか。

古木委員。

○古木勝久委員 今回は、自治会連合会というか、自治会でも取組がいろいろあり、そういう意味では、面白いと思います。

地域によっては、例えば、八尋委員も関係していますが、私の知っている自治会が救命ボックスを使用する、そういう活動をやったりして、安否確認の入口のところで、すごく組織的に広げていこうとしているところもあるし、防災の日に、3人しか集まらなかったとか、そういうマンションもあるみたいなのでその地域によっていろいろだなと思います。

○中村英仁委員長 小山田委員。

○小山田良弘委員 2の地域の防災力の強化は、要支援者を取り残さないっていう部分もあります。

自主防災会だけでいいのかなと疑問に思いました。例えば、民生委員児童委員協議会委員の人たちとの意見交換も大事かなと思います。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 自治会関連に、民生委員児童委員協議会委員は入っているけど呼ばない理由はないですね。一緒に合わせてもいい気がします。

○中村英仁委員長 確かにおっしゃることは分かりますが、人数が増えると、意見交換会でなかなかまとまらなくなってしまうことが懸念されます。私は、民生委員児童委員協議会委員がいいとか悪いではなくて、団体が増えれば増えるほど、私個人的なお話でいうと、政策提言をする上で、先ほど皆さん言われたその項目の中のことを意見交換したいというお話なんですけれども、それ以外の話を持って来られて、そこにも対応しなきゃいけないと、結構増やせば増やすほど苦しくなるんだろうなと思ってます。別に、自主防災会じゃなくて民生委員児童委員協議会委員にしましょうということであれば、それはそれで構わないです。

あと、1つ、実は、民生委員児童委員協議会委員に入ってもらおうと管轄が、文教福祉常任委員会になるので、文教福祉常任委員会委員長にお話をして、許可をいただかなきゃいけないものだと思っています。そのことも、考えて、この後、説明しようと思ったんですけど、障害者団体とか社会福祉協議とか、総務常任委員会の所管じゃないので、そこを選ぶときには、文教福祉常任委員会委員長に話をすべきと思っています。総務常任委員会がやりやすい形として、ここかなっていうところが先にあって、こういう話をしているんですけれども、その上で、皆さんがこことどうしてもやりたいっていうのであればいいと思っているんですけど、意見交換会に呼ぶ団体を増やせば増やすほど広がってくると思います。

小山田委員。

○小山田良弘委員 例えば、2つのグループに、4人ずつで分かれました。

グループで、4人プラス、数人がいて、全体でワークショップみたいなことをやるんだとすれば、大体10人ぐらいが限界だろうなと思います。

それと議員4人と団体6人だとすれば、その6人を自主防災会2人、民生委員児童委員協議会委員2人、防災アドバイザー2人ですとバランスが取れて、あとは、地域をどうするかという問題があると思うんですけど、そういうやり方もあるのかなと思います。全地域の自治連の会長を呼ぶと8人になるので、全部呼ばなければならないのかってということも含めて、ちょっと議論したほうがいいのかなと思います。

○中村英仁委員長 8人の中から、どこを抜くかっていうことが、一番難しいんじゃないかなと思います。

小山田委員。

○小山田良弘委員 それは任せるということにすればよい。8人の中で4人にしたいというふうにすればよい。

○中村英仁委員長 大塚委員。

○大塚毅委員 それぞれの属性というか全部同じじゃなくても、自治会とそれぞれって

いうのはすごいいいかなと思って、2グループは、多分、自治会とか自主防災会でいいと思うんですけれども、逆に1グループのデジタル新技術のところっていうのは、精通というか、少し知ってる人っていうか、そういう人も必要なんじゃないかと思います。

要は1と2のグループで、同じ人たちを呼ばなくてもいいのではないかと思います。

○中村英仁委員長 八尋委員。

○八尋伸二委員 デジタルってなると使う側と考える側っていうのが結構あって、使う側としては、自治会の自主防災会でも問題ない。ただ言っていることがわけわからないという話になる可能性もあります。また、あまり専門家を呼びすぎて、分からなくなってしまうこともありますので、こういうものがあつたらうれしいなとか、このような話でいいと思います。そういう話をしてもらって具体的にどういうところに落とし込むかは、総務常任委員会で考えればいい話だと思います。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 デジタルとはいっても、マイナンバーもあるけど、各論の話じゃないけど……。

だから非常に捉えどころっていうのは、しっかりやっていかなきゃいけないなと思います。それこそ逆に、デジタル未利用者のデジタルデバイドを作っちゃうような感じになっちゃいます。「てこ」ってこんな軽くやっても軽く動くんですねっていうそれを見た人からよく言われてね、リテラシーなんですよ。

それが意識できるような平均値を出していかないとだんだん離れていっちゃうっていうか、難しいかもしれない。

○中村英仁委員長 相原委員。

○相原學委員 ちょっと経験値からいくと北地区は、このデジタルの新技術の活用における課題は、どうやってやるんだよって話になります。こういうことができるよっていう話からやってかないとちょっと難しいんじゃないかなと思う。

そこでスタートに何かないと、ちょっと思うんですけどね。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 それをいわゆる一緒に入れて受ける側が、便利だっていうリテラシー教育をなされていないですね。

○中村英仁委員長 八尋委員。

○八尋伸二委員 ただ、自主防災会とかそういった一般の人たちのほうが逆にいいかもしれないです。ある程度こっち側で議論しながら、どういうところに困っているっていうそういうことがあるとうれしいよねとかでいいと思います。

○中村英仁委員長 今井委員。

○今井実委員 聞いていて、1と2の整合性がなきゃいけないと思う。全く別な人が議論しちゃうと今度はまとめるときにどうなのかなと思うよね。

八尋委員の意見じゃないけど、それぞれのグループで、自主防災会の人、そのために、この計画で整えるってことでしょうかね。そこは整合性がとれてないと、全く別の人やっちゃうとどうなのかなって、心配です。せっかく作っても機能していかなくなる。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 今年の1月に、さっき言ったあるマンションの100世帯ぐらいで、防災課を呼んでやったんですよね。僕も呼ばれて行ったんですけどもそれはなぜやったか。自治会なんですけど9月の防災の日ほとんど人が集まらない。

100世帯のうち3世帯しか集まらなかった。

人がなぜ集まらないのか。一緒に議論するために、私も入ったんですよ。それでやっぱり企画力がないんだねって、自治会長が言われました。例えば、スマホの扱いとか、そんなことも分かってないんだよね。防災課長が、いろいろ説明してくれて、こんな連続した講座をやってもらったらいいいねとか、そのときは2月にやったときは、トイレの話をしてもらい、エレベーターも止まります。トイレが、使えないのは、地震が起きて、全然やっぱり分からないです。そういう認識からちょっと話ずれちゃいますけど、スマホで市役所が、そんな発信しているんだっていう、すみません長くなっちゃって。

○中村英仁委員長 八尋委員が言っているとおりで、考えたのですが、こちらから最新のものを提示してって作っていかうということではなくて、皆さんがどう捉えて、デジタルがどうしてもできないのかとか、どういうところを市に求めてとかそれをこちら側が受けた上で、今あるものなのかそれとももう1個上の段階に行かなきゃいけないのかちょっとまだ何とも言えないところなんですけど、どうやって結びつけていくかってところが私の焦点かなってずっと思っていました。デジタルと防災力の強化ってところをずっと考えてきていて、デジタルは、国土強靱化の中にデジタルが入っている。防災課から秦野市総合防災情報システムを見せてもらって、説明を受けて、これをせっかく設置したんだから、どうやってつなげて、皆さんに理解していただいて何とか活用していただくということが私は一番近道かなとは私の気持ちだったんですが、それをやりたいですよってことじゃなくてイメージはそんなイメージだったんですね。

私としては、そのデジタルをどう今あるものに活用するかとか、くっつけていくとか、あとは皆さんお困りなので、相原委員ゆえに地域差が絶対あることも事実なので、そこをどうつなげていくかっていうところとか、引き出していくほうも当然大事かなと思っていたので、私は、八尋委員と全く同意見でした。あと、最初に私も課題によって分けたほうがいいのかと考えたんですが、皆さんおっしゃるとおり整合性だと思うんです。

古木委員。

○古木勝久委員 私は、整合性そんなになくてもいいような気がしたんですけど、目的

が、元々違うから。

○中村英仁委員長 何か最終的に返してるのは、そこになるだろうなと思うとやはりある程度で、すごく整合性があるって意味ではなくて、ある程度整合性を持ったほうが返していくとき、お伝えしやすいんじゃないかなとは思うんです。

大塚委員。

○大塚毅委員 皆さん意見が出ましたけど、例えば個別のことになっちゃうんですけど、今のその話で、デジタルは、使う人の意見を聞いて、それでこうやっていったほうがいいって話がありました。

2の防災力の強化で、1と2に自治会加入率の低下とか自治会未加入者の情報周知とありますが、自治会未加入者の方とかに意見を聞いていかないとこの議論ができないのではないかと、自治会の人を呼んでもいい意見が出づらいのではないかなと思います。個別のことなので、1と2をやらなければではなく、3、4、5、6だったら自治会の方で、すごいばっちり合うなっていうふうに思いました。

○中村英仁委員長 八尋委員。

○八尋伸二委員 今の話だと自治会未加入者を呼びましょうっていう話になると、それは無理がある。それはやりにくいし、従来どおりで、そこをどう整合性をとっていくかっていう、今、言ったと思うんですけど、1と2が関連している部分がたくさんあり、そうしているんで、そこはどういうふうにガッチャンコしていくか、タイミングを見計らってと言われたんで、そのタイミングをどうするかっていうことを検討しているとそういうことだと思います。

○中村英仁委員長 もう一つ言うと、議会報告会っていうものをするという大前提があった上で、意見交換会は、各グループに分かれて各グループで聞き取りをやりたいういうんだったら、それはそれでいいんじゃないかなと思います。特に制限をかけているわけではないので、例えばデジタルの4人で、もう1個聞いとかなきゃいけないところがあるって話になるんだったら、それでいいんじゃないかと思います。こちらからそれを言わないよとっていう話はなくてもいいんじゃないかなと思っています。

議会報告会っていう中で、今回の政策提言での意見交換を行うっていう前提になるときに、さっき言ったようにバラけると、いろんな情報がきすぎてしまうと広げて大変なってしまうという状況の中だったら絞っていったほうがいいだろうと私は思ってますけど、そこら辺はもう皆さんがどう思うかで、1個は正論でどこから拾い上げるって意見を出してもらわないと、それをやりましょうかって言われても、当初の思いつきだけでこれはこうします、こうじゃないですかと言われても困ってしまうので、事前にどこと意見交換をしたいですかって話と、内容はどういうふうなことをやっていくかっていうことを皆さんに挙げていただいたので、この皆さんからもらったものだからどんどん細かくされても困ってしまう。1回まとめたところなので、あとはそれぞれグループに

分かれたときに、プレゼンをしていただいて、皆さんが合意をしていただけるんだったら、それは別にいいかなと思うので、まとめたんですけれども意見交換先は、3つの団体にすれば、4人ずつ呼ぶ。

相原委員。

○相原學委員 民生委員児童委員協議会委員も確かに必要なんだけど、何人ぐらいいらっしやるんですか。結構いるでしょう。

○中村英仁委員長 小山田委員。

○小山田良弘委員 自治会連合会が各地区にあり、それと一緒に、例えば、北地区民生児童委員連絡協議会があつてそんな形であげてくださいっていうことでいいわけです。引き続き自治会連合会から1人、北地区民生児童委員協議会から1人っていうふうに言えば、1人ずつ。そのような形で、増やしてもらおう。その後、多いから、それを例えば北地区は、自治会連合会にしてください、東は民生委員児童委員協議会委員にしてくださいとかってある程度そういうことになる。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 テーマがテーマだけに、要介護者だとか、あるいは弱者っていうか、表現に近づけるためにやっぱり自治会連合会だけでなく、民生委員児童委員協議会委員は押さえないと、自治会の中でも本当に三位一体で動いていますけど、参加の中で動いているけども、やはりそういう部分で動いていらっしやる人と話さないといけないかなと思います。

人数はその工夫で、小山田副委員長が言われたような、そういう捉え方は外せないセッションなのかなと思いますけど、テーマにしたら。

○中村英仁委員長 3つの団体で行こうかと話ありましたがさあそれでよろしいですか。地区によっての差異が当然出てくるとは思いますが、御理解いただいたことでよろしいですか。そこに防災アドバイザーの方に来ていただければ、話の流れとしてうまくいくかなと思います。それぞれ4人ずつお呼びし、グループに分かれていただく。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 それでは、そのように決定いたします。

4人ずつで、決めましたけど、あと自分が所属してないほうに関しては、正・副委員長にそれぞれ言ってもらおうという形でよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 それでは、そのように決定いたします。

あと1つ。グループのリーダーはそれぞれグループで決めてください。

次に、3その他ですけど皆さんから何かございますでしょうか。

今井委員。

○今井実委員 自分の考え方っていうか、一緒に聞いてほしいんだけど、こういう議論をしているじゃないですか。

自分が議長のときに通年議会の理解をいただいて、通年議会にする目的の大きな1つの常任委員会の活性化ということで、やったわけです。

政策立案や政策提言を2年でという枠で縛るっていうのは、見てると大変ななかなか難しい場合もあって、大塚委員からも先ほど聞いていると、時間がないからということであります。一番心配するのはやりましたっていう結果だけ作っちゃうのはどうなのかなって、できるだけ中身のいいもの、あるいは実効性のあるもの、そういうものを作り上げていくのがいいわけで、最終的に自分の声にできないか、何も無理しないでやらなくてもいいんじゃないかって思ったりもするんで、どうしても皆さん2年のうちにやるっていう大変タイトな中でやるんで、今、言ったように、回数も限られちゃうし、なかなか中身も練れないという状況が常に見受けられるので、その辺もう少し柔軟にやってもいいのかなって、思いました。

○中村英仁委員長 それぞれの会派で今回視察に対して政策提言をこういうふうにやっていますよっていう、もうそれぞれ多分同じ原稿のもとで相手にお伝えされたと思うんです。やはり、その部分はおっしゃるとおりで、いっぱい出ててどういうふうにしていけばっていうと、多分それぞれの考え方なので、これは多分、議運なのか代表者会議だとか、並行して、そういう話をされたらいいんじゃないですかね。そうすると4年間同じ常任委員会のほうがいいんじゃないかって話になったりとか、先についたときにどうしていくかとか、あとは、そういうふうな御意見をいただきながらブラッシュアップしていく必要があると思う。

1回目より2回目、2回目に3回目がよくなっていけばいいなっていうふうに思っているんで、おっしゃるとおりだとは思いますが。

今井委員。

○今井実委員 2年で十分できちゃうものもあれば、正直、2年じゃ厳しい。それを柔軟にやってくれりゃいいのかなとその常任委員会の判断。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 常任委員会の関連は、政策提言の実施の在り方が議運の課題にありましたよね。

○中村英仁委員長 八尋委員。

○八尋伸二委員 実施方法手段等については検討が必要と、今週末までに各会派から課題の回答を出すことになっていますよ。

○中村英仁委員長 議運の中で検討して、方向性を出していくと思うので、議運で話し合えばよいのではないかと思います。

私のほうから、多分次の議運のときにその内容について、委員会でもちゃんとこう

いうふうに出ましたっていう話を私からさせていただこうかと思います。

そのほかに、委員の皆様から、何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 では、議会局から何かございますか。

議会局書記。

○議会局書記 それでは、政策提言に関する次回の常任委員会の開催につきまして、御連絡いたします。

次回は、10月16日・水曜日の議員連絡会終了後、開催を予定していただければと思います。

以上です。

○中村英仁委員長 ただいま議会局書記より連絡いただきました、次回は、10月16日・水曜日の議員連絡会終了後、開催を予定していただければと思います。

それでは以上で、総務常任委員会を閉会いたします。

午後 0時21分 閉会

総務常任委員会委員長 _____